

研究構想図

日本国憲法
教育基本法
学習指導要領
武蔵村山市教育委員会教育目標

学校教育目標

- ◎ よく考える子
- なかよくする子
- 元気で明るい子
- 力いっぱいがんばる子

保護者・地域の学校への期待

- ・ 学習規律の徹底と
基礎的な学力の定着
- ・ 望ましい人間関係の構築

研究主題<目的>

主体的に学習に取り組み、思考を深める児童の育成

研究主題設定の理由

① 昨年度までの校内研究の成果と課題から

昨年度は「主体的に学習に取り組み、思考を深める児童の育成～確かな学力の育成を目指したしかけ作りとスキルアップ～」という研究主題で、研究を進めてきた。児童の主体性を引き出す「しかけ」を普通の授業から意識して取り組むことができたことは成果であるが、主体的な学びから思考を深める学びへと連動させることができなかったのが課題である。

② 最近の教育課題から

学習指導要領の考え方のうち、「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」の2つに重点をおき、3つの資質能力を育成していく。

③ 学校教育目標と児童の実態から

本校の児童の実態として、教職員から「基礎・基本が定着せず、学力が低く、学力の格差がある。」「主体性に欠ける。」「思考力が低い。」という上位3つがあがった。この3点を高めることができれば、本校の学校教育目標である「よく考える子」を増やすことができると考える。

研究仮説

児童の主体性を引き出す「しかけ」を考えることで、児童は自然と思考するようになるであろう。さらに、教師が単元及び一単位時間で働かせてほしい数学的な見方・考え方を明らかにし、児童のつぶやきを取り上げたり、多様な考えを引き出し関連付ける集団検討をしたり、有効な話し合い活動を取り入れたりすることで思考を深めさせることができるであろう。

研究の視点

① 児童の主体性を引き出す「しかけ」作り

② 数学的な見方・考え方の具体化

③ 児童の思考を深めさせる「しかけ」作り（発問、思考ツール、集団検討など）（児童が働かせている数学的な見方・考え方を顕在化する方法＋見取り価値付ける方法）

① 児童が自分の思いや疑問を表現したくなるような「しかけ」を作ることで、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。

② 単元及び一単位時間で働かせたい数学的な見方・考え方を具体的に示す。

③ 児童の発言のどのような内容をピックアップし、教師がどのような発問をし、どのような活動（思考ツール、集団検討）を取り入れると、児童の思考を深めさせることができるのかを考える。

授業実践

- ・ 「主体的」「対話的」「深い」学びの視点を取り入れた、指導の手立ての開発
- ・ 研究授業を低・中・高の分科会1本実施とする。
- ・ 実践授業の成果と課題をまとめる。

検証

- ・ 研究授業で児童の学びを観察し、その学習状況の分析による事例的手法で検証する。
<手順>①観察の視点をたてる ②授業観察シートを作成する ③期待する変容の明確化
④学習状況に関するデータ収集 ⑤分析
- ・ 各学期に意識調査を実施し変容をみとる。
- ・ 日々の授業の振り返りで、授業の始まりと終わりで児童の考えがどう変容しているかをみとる。